

總計	表									
	山					山				
	其計	器械ノ爲メ	汽罐破裂ノ爲メ	破裂藥ノ爲メ	其他	其計	器械ノ爲メ	汽罐破裂ノ爲メ	破裂藥ノ爲メ	其他
一七、五五四	一八、五〇〇	九〇八	一	四	二、五四九	三、四六二	二	三	三	二、四
三五	四〇	二	二	三	(二四)	一〇	三	一〇	三	二、四
二〇三	二四	三	三	二	二五	五	二	二	二	二、四
一六、七三	一七、六五	八四	一	三	二、九三	二、六三	一	一	一	二、六三
二七	二七	二七	二七	二七	二、七	二、七	二、七	二、七	二、七	二、七
一七、〇一〇	一七、九四九	八九	一	三	二、〇四七	一、三〇八	一	一	一	一、三〇八
四一	四一	四一	四一	四一	四一	四一	四一	四一	四一	四一

第十章 時局後ニ於ケル新重要鑛山ノ概況

事業ノ發展ニ因リ其鑛產額増進シ時局以來新ニ重要鑛山タル資格ニ達シタルモノ各鑛種ヲ通シ其數尠カラサルモ本書編纂期迄ニ便宜調査ヲ了シタル鑛山ニ就キ左ニ其梗概ヲ記シ以テ參考ニ資セ

備考

- 一、茲ニ重要鑛山ト稱スルハ其產額左ノ標準ニ該當スルモノヲ云フ
- 金 一箇年製出高 五貫以上アルモノ 石油 一箇年製出高 一萬石以上アルモノ
- 銀 同 百貫以上アルモノ 硫黃 一箇年製出高 百萬斤以上アルモノ
- 銅 同 十萬斤以上アルモノ 其他ノ鑛產物ニシテ一箇年ノ鑛產價額三萬圓以上アルモノ
- 石炭 一箇年產出高 五萬佛噸以上アルモノ
- 二種以上ノ鑛產物アルモノニシテ其主要產物ノ產額前記各號ノ一二達セサルモノ其他ノ鑛產物ノ價額ヲ合算シテ 三萬圓以上アルモノ
- 製鍊ヲ爲ササル鑛山ニ付テハ採掘鑛石ノ品位ニ依リ算出シ其含有量ノ前記各號ノ一二該當スルモノ
- 二、附圖ハ鑛區圖ニ基キ作製シタルニ依リ地形ト實地ト多少符合セサル點ナキニアラス

秋津鑛山 (大正六年七月平林技師巡回)

位置交通其他 本山ハ秋田縣北秋田郡矢立村ニアリ奥羽線陣羽驛ヨリ北方約一里三合許急峻ナル溪間ニアリ即チ陣場驛ヨリ國道ニ沿ヒ北北東十四五町ノ所ヨリ北面大湯澤ノ溪谷ニ入ルコト一里弱ナリ故ニ其運搬ハ選鑛場ヨリ中小屋迄ノ間八町間ハ其傾斜急峻ナルヲ以テ土橇ヲ使用シ中小屋ヨリ以南ハ荷馬車ニ依レリ其運賃百貫ニ付二十三錢ヲ要スト云フ又陣場驛ヨリハ鐵路ニテ鹿角郡

小坂鑛山ニ送ルモノニシテ其運賃百貫ニ付六十錢ナリ而シテ小坂鑛山ニ於テハ更ニ磁選機ニヨリ亞鉛鑛及銅鑛ニ區別スルモノニシテ前者ハ之レヲ大阪亞鉛會社ニ送り後者ハ自山ニテ製鍊ヲナセリ今過去一箇年間ノ產額ヲ見レハ大正五年下半年期四月ヨリ九月迄ノ精鑛一千六百十八噸大正六年上半年期(大正五年十月ヨリ六年三月迄)一千二百三十五噸餘ナリ

本山ハ明治三十七年末ヨリ乳井良三ノ稼行セル所ニシテ其際ニハ主トシテ銅鑛ヲ採掘セリ大正四年二月現鑛業權者合名會社藤田組ノ讓受クル所トナリ其以後ニハ亞鉛鑛ヲ目的トナセリ目下當山ノ使役人ハ二百五十五名ニシテ此内坑夫九十名ナリ

鑛區ハ採掘權登錄第七〇號鑛種(金、銀、銅、亞銅)四十九萬五千三百七十九坪ナリ

地質 地質ハ第三紀層及之ヲ貫ケル安山岩及ヒ石英粗面岩ヨリ成ル

第三紀層ハ此地方基礎部ヲナセルモノニシテ主トシテ凝灰岩ヨリ成ル普通ニハ淡綠色或ハ白色ニシテ其層理判明セス

安山岩ハ暗綠色ニシテ地表ニ露出セル部分ハ狹小ナレトモ坑内ニハ廣ク存在セリ此岩石ハ甚シク分解シテ變朽安山岩トナレリ

石英粗面岩ハ帶綠白色ニシテ地表ニ於ケル露出ヲ見サレトモ坑内ニ於テハ下磐地ノ奥ニ少シク之レヲ見ルコトヲ得ヘシ

鑛床 鑛床ハ裂罅充填脈ニシテ主ナルモノ一條ナリ其走向ハ約北六十度東ニ走り其延長目下知ラレタル區域ニテハ一千七百尺ニ及ヘリ而シテ脈内ノ東部ニ於テハ其傾斜南東六十度位ナルモ西スルニ從ヒ次第ニ急斜トナリ終ニ其西端ナル鬼ヶ澤ノ區域ニ於テハ反テ北西ニ急斜セリ坑道ノ主ナルモノハ三番坑中切坑及大切坑ニシテ各坑道間ノ直立高距百四十三尺ナリ而シテ坑内ハ中切坑道

以上ノ大部分ハ既ニ採掘セリ大切坑道ハ目下其延長八百七十尺ニ及ヘリ此坑道ハ坑口ヨリ一千三百尺ニシテ鑛脈ニ會スヘキ豫定ナリ故ニ目下掘進ノ割合ニ因レハ明年三月末ニアラサレハ鑛ニ會セザルヘシト云フ此鑛脈ニ沿フテハ時々走向斷層ヲ伴ヒ爲メニ一時鑛石ハ杜絶シテ粘土鑛ノミトナルコトアルモ普通ニ採掘スル鑛石幅ハ五寸乃至四尺ナリ鑛石ハ閃亞鉛鑛ニシテ此レニ黃銅鑛及ヒ黃鐵鑛ヲ雜ヘ稀ニ方鉛鑛ヲ伴ヘリ脈石ハ石英ニシテ脈中ノ兩壁ニアリ又少シノ方解石ヲ伴フコトアリテ此場合ニハ脈ノ中央部ヲ占タリ而シテ此鑛脈ハ其ノ全延長ノ内中央部三分ノ一ノ間ニハ可良ノ亞鉛鑛ヲ出スモ東スルニ從ヒ次第ニ黃鐵鑛ヲ共雜スルコト多ク又西スレハ黃銅鑛ヲ混入シ來リ終ニ鬼ヶ澤ノ區域ニ入リテハ專ラ銅鑛ノミヲ出スナリ鑛石ハ坑内ニ於テ可良ナル部分ハ之レヲ上粗鑛ト稱シ特ニ以入レトナシ以テ竝粗鑛ト區別セリ其量ハ出鑛中ノ十二%半ニ當タレリ今現鑛業權者ノ有ニ歸シテヨリ以後二箇年餘ノ平均數ヲ見レハ上粗鑛ノ品位ハ亞鉛三十%、銅二%竝粗鑛ノ品位ハ亞鉛七%、銅〇・七%ニシテ以上兩者共ニ器械選鑛ニ附セラルルナリ而シテ得タル精鑛ノ品位ハ亞鉛三十五%、銅三%ナリト云フ

次ニ本鑛ヨリ北方二百四十尺ニシテ下磐鑛ヨリ三番坑道ニテ少シク探鑛ヲナセリ此脈ニハ幅三寸ノ亞鉛鑛アリシモ西スルニ從ヒ細クナリテ銅鑛ト變セリ

猿間鑛山 (大正六年七月平林技師巡回)

位置交通其他 本山ハ秋田縣北秋田郡十二所町大字猿間ニアリ即チ秋田鐵道ノ十二所驛ヨリ北東一里許ノ溪間ニアリ此間輕フシテ車馬ヲ通シ得ヘキモ其途中ニ米代川ノ渡船アリ故ニ其交通可ナリ便利ナリ當山ノ鑛石ハ從來小坂鑛山ニ賣鑛セシカ本年四月以後ハ全部日立鑛山ニ送ルコトナリ其運搬ハ當山ヨリ米代川畔迄ハ馬背ニテ搬出シ渡船場ヨリハ川船ニテ下スコト八町更ニ馬車ニ

積替へ之レヲ十二所驛ニ送ルモノニシテ其距離ノ近キニモ拘ハラス比較的複雑ナリ而シテ十二所驛ヨリハ鐵路直チニ茨城縣助川驛ニ送ルモノニシテ其運賃ハ鑛山ヨリ十二所驛迄百貫ニ付七十錢十二所驛助川驛間一噸ニ付三圓五十錢ヲ要スト云フ

本山ハ往時盛ニ稼行セシモノノ如ク舊坑ノ深キモノ多シ明治四十一年以後極メテ小規模ニテ之ヲ探鑛セルモノアリシカ大正元年十二月現鑛業權者矢島浦太郎之ヲ讓受ケ爾來尙ホ微々トシテ振ハス事業頗ル悲觀サレシカ大正四年ニ至リ旭一號坑内ニ於テ富鑛部ニ會シ次テ中切坑及ヒ魁坑内ニ於テモ之カ總先ニ會セシ爲メ俄然盛況ニ向ヘルモノナリ今最近ノ賣鑛高ヲ掲クレハ左ノ如シ

年次 數量(貫) 含銅品位(%) 價格(圓)

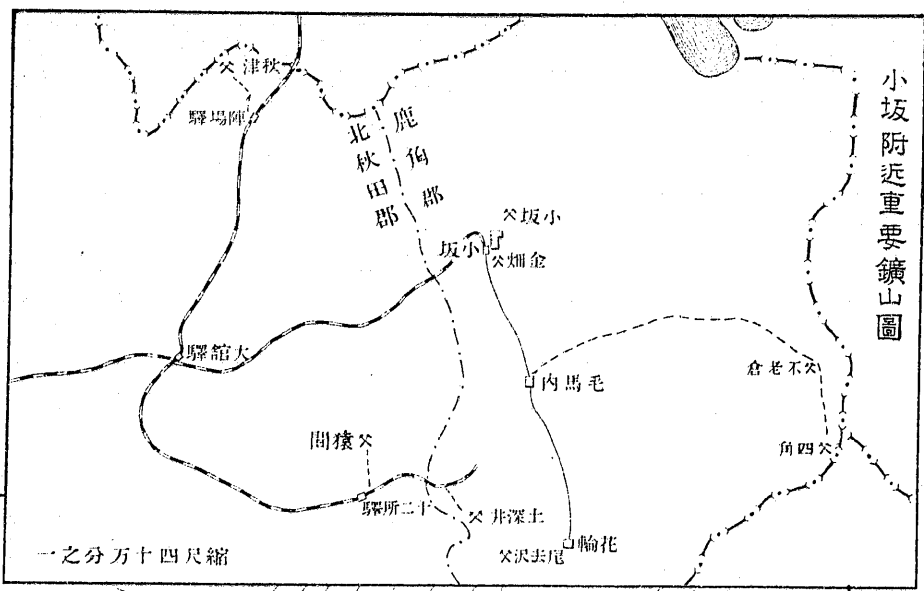
大正五年上半年	三一八、七九九	一二・四	一二〇、六三七
同 下半年	三三〇、一九二	一〇・二	一〇二、一七〇
大正六年上半年	四二二、一一五	一二・〇	一一二、三三九

目下本山ニ使役セル人員ハ百八十五名ニシリ此内坑夫七十二名ナリ鑛區ハ探掘權登錄第二七二號鑛種金、銀、銅、鉛五十九萬九千九百坪ナリ

地質 地質ハ鑛山附近ノ地ハ全部第三紀層ニシテ主トシテ凝灰岩及ヒ泥板岩ヨリ成ル此凝灰岩ハ白色或ハ淡青灰色ニシテ層理判明セス然レトモ鑛山ヨリ南方ナル米代川畔ニ於テハ其走向北東ヨリ南西ニ走リ北西二十五度ノ緩斜ヲナセルヲ見ルナリ又泥板岩ハ暗灰色ニシテ時々拔物的ニ凝灰岩中ニアリ其内魁坑内ニ於テ長サ百二十尺間ノ泥板岩ヲ切レルハ最モ連續セルモノナリト云フ此等ノ點ヨリ推測スルモ斷層ハ少ナカラス存在セルモノナルヘシ

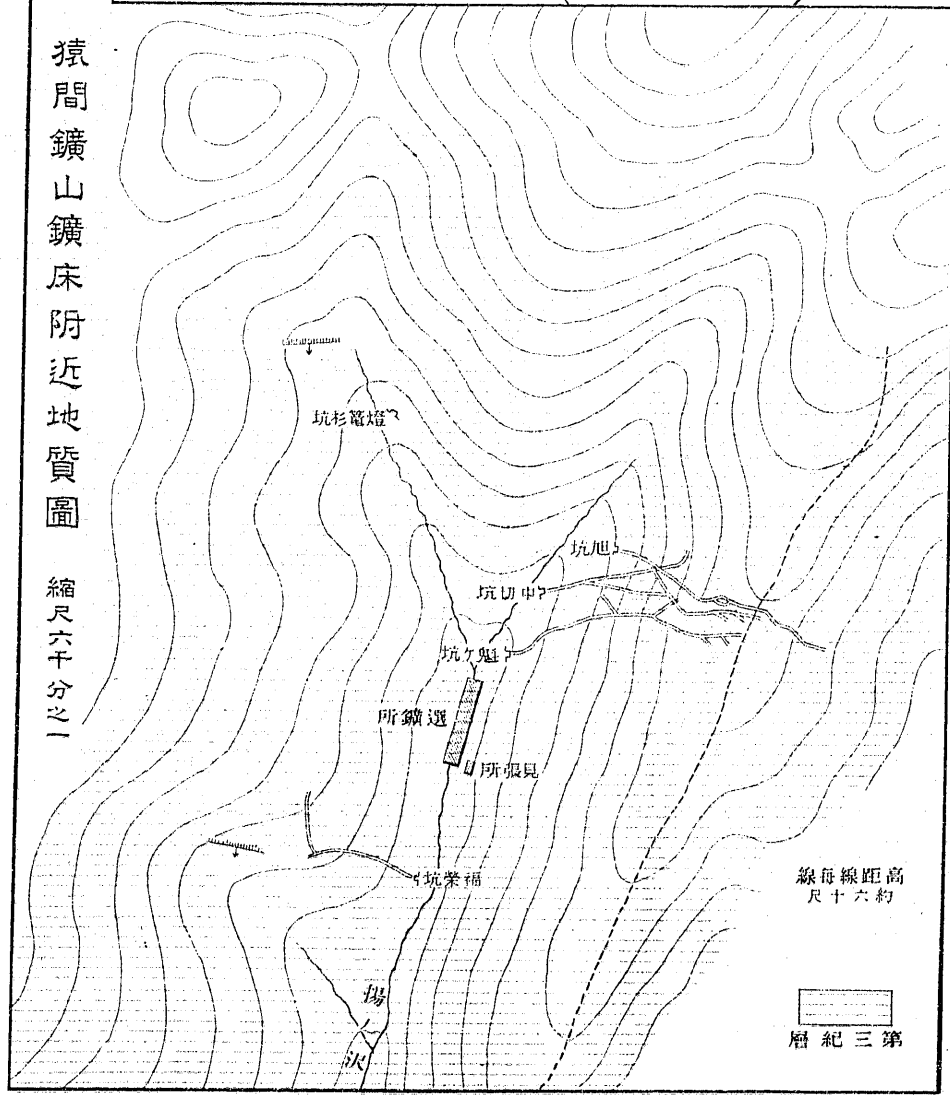
目下稼行セル坑口ハ楊ノ澤ノ溪間ニシテ之ヲ魁坑、中切坑、魁坑口上八十尺及ヒ旭一號坑、中切坑口上

小坂附近重要鑛山圖



猿間鑛山鑛床附近地質圖

縮尺六千分之一



百二十尺等アリ又溪ノ兩側ハ其地形高峻ニシテ其高六百尺乃至八百尺ニ及ヒ全部國有林ニシテ樹木可ナリ繁茂セリ

鑛床 鑛床ハ裂罅充填脈ニシテ露頭及ヒ舊坑等ヨリ推測セハ其數夥シカルヘキモ目下稼行セルモノハ僅カニ一條ニシテ其走向北六十度西傾斜南西七十度ヲ示セリ鑛石ハ極メテ簡單ナルモノニシテ黃銅鑛ノ外ニハ黃鐵鑛及ヒ石英アルノミ其構造ハ帶狀構造ヲ呈シ脈中ノ兩壁ニハ黃鐵鑛アリ次ニ黃銅鑛發達シ中央部ノミハ石英或ハ石英ト共ニ再ヒ黃鐵鑛ヲ見ルコトアリ又鑛石ノ幅ハ二三寸ヨリ膨大スレハ六尺ニ達スヘシ而シテ此肥大部ハ斜ニ南東ニ落トセシ傾向ヲ有セリ

此脈ハ目下旭一號坑道ニテハ其開鑿六百尺中切坑道ニテ四百尺、魁坑道ニテ三百尺餘ニ達セリ其内中切坑道及魁坑道ニ於テハ鑛脈ノ西端ハ其走向約北西ヨリ南東ニ走リ南西ニ斜下セル斷層ノ爲メニ切斷サレアルナリ又此脈ノ東方ニ於テハ三條ニ分岐セリ而シテ旭一號坑内ニ於テハ其内ノ上磐通及中繩ノ二條ハ長七十尺幅十五尺許ノ中馬ヲ挿ミテ再ヒ合著セルヲ見ル又中切坑道ニ於テモ將ニ之ト同様ノ傾向ヲ示セリ此坑内ニ於テ旭一號坑道ヨリ上部地表迄約二百五十尺ノ間ハ舊坑若クハ採掘跡ナルモ旭一號坑道以下ハ殆ント全部未著中ニシテ單ニ坑道ヲ通セシノミ又鑛石ハ旭一號坑道準迄ハ輝銅鑛ノ如キ酸化物多ク又中切坑道ニモ多少之ヲ見出シ得ヘキモ目下最下部タル魁坑道準ニハ最早酸化鑛ヲ見出サルナリ又坑内ヨリノ出坑ハ其内ヨリ捨石及含銅貧弱ナルモノヲ手選シ去ルモノニシテ從來ノ經驗ニ照セハ其數二割四分ニ達セリ而シテ得タル精鑛ノ含銅品位ハ八乃至十%ニ達セリ尙ホ金分ハ痕跡銀分ハ約十萬分ノ三位アリト云フ

土深井鑛山 (大正六年七月平林技師巡回)

位置交通其他 本山ハ秋田縣鹿角郡錦木大字土深井ニアリ即チ秋田鐵道尾去澤驛ヨリ南方里餘ノ

溪間ニシテ該驛ヨリ尾去澤鑛山ヘノ馬車軌道ヲ布設シアリ物資及鑛石ノ運搬ノ如キモ悉ク此軌道ニ依ルヲ以テ大ニ便宜ヲ得ルナリ當山ノ鑛石ハ大館驛渡シニテ小坂鑛山ニ賣鑛スルモノニシテ其運賃ノ如キモ鑛山ヨリ尾去澤驛迄百貫ニ付三十五錢尾去澤大館兩驛間モ亦三十五錢合計七十錢ヲ要スルナリ

本山ハ明治二十年頃ヨリ四十五年迄ノ間ハ極小規模ノ稼行ヲナシ或時ニハ一時中止ノ状態ナリシ
 カ大正元年八月現鑛業權者乳井良三之レヲ讓受ケテヨリ以來豎入坑ヲ開鑿シテ二號鑛ノ良鑛ニ會
 シ又大切坑道ノ取明ケヲ爲シ一號鑛ノ下底ヲ探リタリ今ヤ下底採掘ノ目的ニテ深サ二百五十尺ノ
 豎坑ヲ開鑿ノ準備中ニアルモノナリ而シテ昨年ノ賣鑛高ハ銀銅鑛二千三百五十三貫銅鑛二十六萬
 五千九百七十八貫其價格六萬二千四百四十圓ナリ又本年上半期ノ鑛石ハ十萬二千六百二十貫ナリ
 目下當山ニ使役セル鑛夫ノ數ハ九十二名ニシテ其內坑夫三十一名ナリ

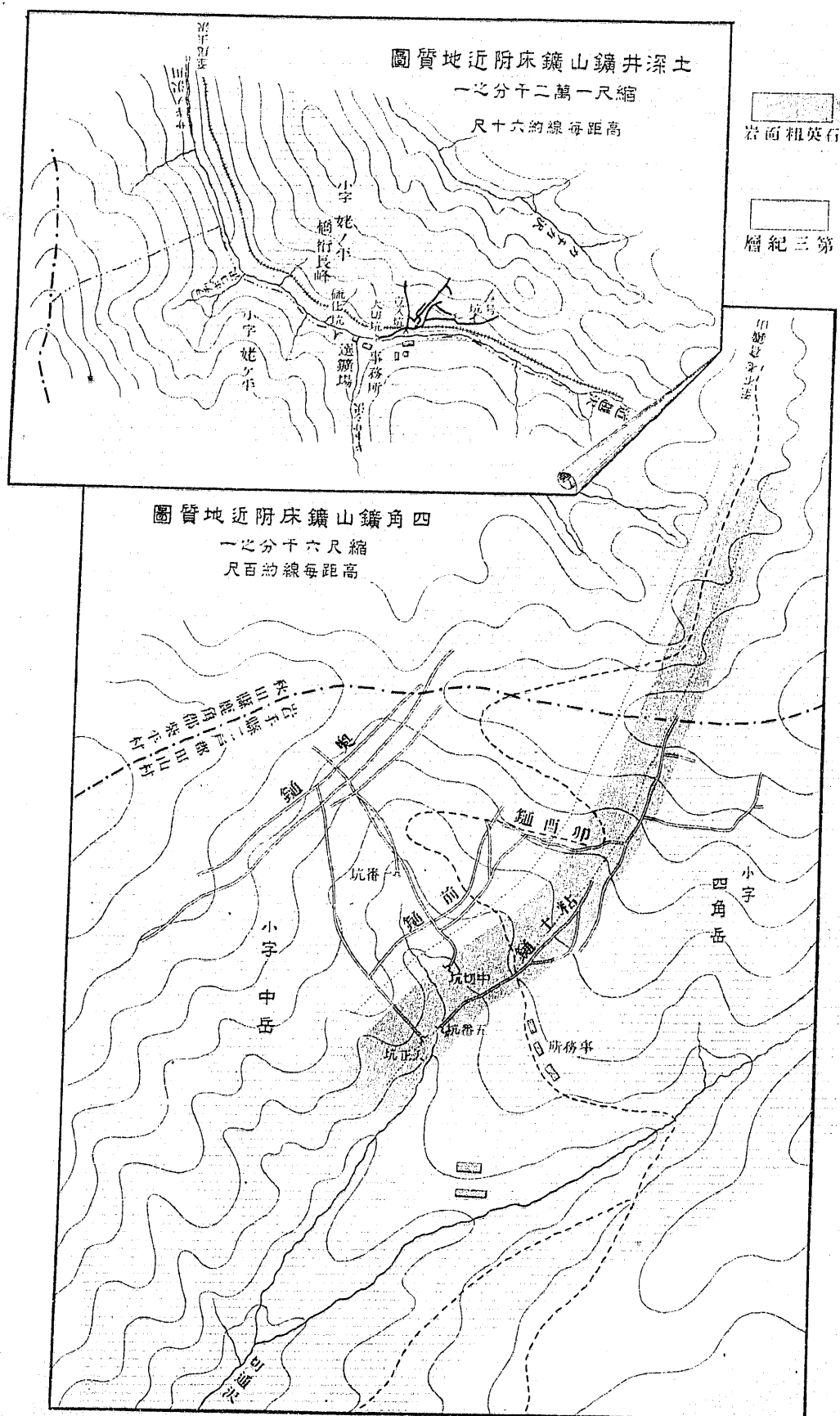
鐵區八探掘權登錄第一三六號種金、銀、銅十四萬六千九百十五坪ナリ

鐵區ハ探掘權登録第一三六號鑛種金、銀、銅十四萬六千九百十五坪ナリ

地質 地質ハ第三紀層ノ泥板岩凝灰質泥板岩等ヨリ成ル其走向隨所多少ノ變動アルモ大體ニ於テハ略ホ南北ニシテ西方ニ十度乃至三十度ノ傾斜ヲナセリ然レトモ稀ニハ五六十度ノ部分モアルナリ母岩ハ堅硬ナラサルヲ以テ其開鑿容易ナルモ支柱ヲ要スルコトモ夥シ

鑛床ハ裂罅充填脈ニシテ主ナルモノ二條アリ一號西及ヒ二號鑛是レナリ

ニシテ南方ニ斜下シ目下坑道ノ取明ヲ爲セル區域約四百五十尺ニ及フ後者ハ其走向北三十度東ニシテ南東ニ急斜シ其延長二百尺許リナリ脈幅ハ二三寸ヨリ膨大セハ十二尺ニ及フト云フ目下坑道ハ取明中ニシテ殆ント全部支柱ヲ施シアル爲メ之ヲ實見スルコト能ハサルヲ遺憾トス大切坑ハ溪水ノ傍ヨリ開坑セルモノニシテ此坑道ヨリ上部ハ既ニ大部分採掘セルヲ以テ今後ハ專ラ堅坑ニヨ



リ以下ヲ採鑛セサルヘカラス而シテ大切坑道準ニ於テ支柱ノ間ヨリ僅カニ見ラレ得ヘキ鑛脈ノ狀態ハ何レモ帶狀構造ヲナシ一號鑛ハ脈ノ兩壁ニ石英アリ中央ニハ黃鐵鑛及黃銅鑛ニテ充填セラルモノナリ又二號鑛ニ於テハ綠泥石中ニ黃鐵鑛ヲ散布シ其中央ニ黃銅鑛ヲ通セルヲ見ルナリ故ニ此鑛石中ニハ夾雜物少キヲ以テ目下ハ手篩ニ依リ塊及ヒ粉ニ分チ塊鑛ハ更ニ手選ヲナシ粉鑛ハ箆揚ヲ行フモノニシテ過去二箇年間ノ成績ヲ掲クレハ左ノ如シ

	大正四年		大正五年		大正六年	
	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期
精鑛ノ含銅品位(%)	八・〇	六・六	六・六	六・七	六・七	四・八
粗鑛ヨリ精鑛ノ選出率(%)	七・六	八・四	八・四	四・四	四・三	四・一

以上ノ外尙ホ三條ノ小脈アリ其内ニテ粘土鑛坑ト稱セルモノハ其走向北三十度東傾斜南東六十五度凝灰岩中ノ石英脈ニシテ重晶石ヲ伴ヒ幅五寸乃至八寸ノモノナリ坑口ヨリ七十尺許掘込探鑛ヲナセリ又一號坑鑛ハ泥板岩中ニ幅二尺ノモノアリ坑口ヨリ三十尺許ニシテ北七十度東ニ走レル斷層ニ會シ中止シアリ硫化鑛ハ泥板岩中ニ北三十度東ニ走リ北西六十度ニ斜下セル石英脈ニシテ其内ニハ夥シク黃鐵鑛ヲ出スモ銅鑛ハ極メテ稀ニ見出サルルモノナリ

四角鑛山 (大正六年七月平林技師巡回)

位置交通其他 本山ハ秋田縣鹿角郡柴平村大字柴内小字四角岳ノ山上ニアリ四角岳ハ海拔三千三百十尺秋田青森岩手ノ三縣ニ跨レル高山ニシテ其交通極メテ不便ノ地ニアルモ不老倉鑛山迄ノ間ニハ延長二哩ノ索道ヲ架設シ又不老倉鑛山ヨリハ更ニ小坂鑛山ニ至ル約十二哩ノ索道アリ鑛石及物資ノ運搬ハ總テ之ニ依ルヲ以テ運搬上ニハ甚シキ不便ヲ感セサルナリ

本山ハ舊時南部藩ノ稼行セルモノナリシカ天明年間ヨリ留メ山トナリシモノナリ明治四十一年頃ヨリ江森盛孝之ヲ採掘シ鑛石ヲ不老倉鑛山又ハ小坂鑛山ニ販賣セシカ大正三年一月ヨリハ現鑛業者ナル合資會社藤田組ノ有トナリ小坂鑛山ノ支山トシテ事業ヲ經營セルモノニシテ大正三年ノ產出高ハ精鑛十萬六千三百三十一貫同四年十六萬四千八百二十三貫同五年三十一萬四千九百二十八貫同六年上半年期九萬七千七百三十二貫ナリ尙ホ之レヲ小坂鑛山ニ送り製鍊セシ結果左ノ如シ(此精鑛ノ數量ハ製鍊元鑛ノモノト同一ナラス)

年次

銀(匁)

電氣銅(斤)

大正三年	四、五八四	三五、五四七
同 四年	一二、二九二	九五、五〇六
同 五年	八、二一一	四九、一七六

目下使役セル鑛夫ノ數ハ百三十九名ニシテ此内坑夫六十二名ナリ鑛區ハ探掘登錄第五七號鑛種銅、三十萬五千七百九十三坪ナリ

地質 地質ハ第三紀層石英粗面岩及安山岩ヨリ成ル(附圖參照)第三紀層ハ主トシテ凝灰岩及泥板岩ナルモ鑛床附近ニハ凝灰岩發達セリ其層理判明セス

石英粗面岩ハ巨大ナル岩脈ヲナセルモノニシテ其走向北三十度乃至四十度東傾斜北西ナリ即チ大正坑内ヨリ北東ニ走リ四角岳ノ北西ナル不老倉鑛山ニ通スヘキ路上ニ露出セリ其幅少クモ百尺アルヘシ此岩石ハ帶綠灰白色或ハ白色ニシテ中形ノ長石及石英斑晶ヲ有セルモノナリ安山岩ハ坑内五番坑ノ奥若クハ中切坑内卵西鑛ノ奥ニ出ツルモノナルモ地表ニハ未タ之ヲ見出サルナリ此岩石ハ暗綠色緻密質ニシテ甚シク霏爛セル變朽安山岩ニシテ殆ント凝灰岩ト識別シ難キ

程ナリ

鑛床 鑛床ハ裂罅充填脈ニシテ不老倉鑛山ト同一種類ナリ而シテ當鑛區内ニ於テハ奥鑛前鑛五番坑ノ鑛及卵西鑛ナル四條アリ奥鑛ハ當山主要ノモノニシテ其走向北四十五度乃至五十度東傾斜北西五十度目下開鑿サレアル坑道ノ延長千二百尺ニ及ヘリ前鑛ハ前者ト竝行セルモノニシテ其延長四百尺許ナリ五番坑ノ鑛ハ斷層ニ沿ヘル粘土鑛ニシテ北五十度東ニ走リ北西ニ斜下セリ然ルニ卵西鑛ハ其走向北七十五度西ニ走リ傾斜北東七十度延長三百尺許ノ間判然セリ

鑛石ハ黃銅鑛ニシテ之ニ黃鐵鑛及雲母鐵鑛ヲ伴ヘリ此雲母鐵鑛ハ奥鑛ニ於テハ特ニ多ク伴隨セルヲ見ル而シテ鑛石ハ石英及ヒ綠泥石ナリ鑛石ノ幅ハ其脈中ニ走向斷層ヲ伴ヘルコト多キ爲メ變化甚シキナリ即チ奥鑛ニテハ其幅五六寸ヨリ膨大スレハ四尺トナルヘキモ其平均ハ一尺餘ナルヘシ前鑛ハ殆ント粘土鑛ナルカ僅カニ幅一二寸ノ鑛石ヲ見ルノミナリ五番坑ノ鑛モ亦走向斷層ノ爲メ一時粘土ノミトナルコトアルモ膨大スレハ幅三尺ノ鑛石ヲ見ルコトアリ其平均幅ハ四五寸ノモノナルヘキカ又卵西鑛ハ殆ント全部探掘サレアルヲ以テ之レヲ知ル能ハサルナリ此鑛石ハ單ニ手選及ヒ箒揚ノミニテ選別セラルルモノニシテ今大正三年四月以降本年六月迄ノ粗鑛及ヒ精鑛ノ平均含銅品位ヲ揚クレハ左ノ如シ(但シ此品位ハ山元ノ見込ニヨル)

年度	粗鑛品位(%)	精鑛品位(%)	粗鑛中ヨリ精實收率(%)
大正三年(四月以後)	三七三	六六七	五二
同 四年	三七七	五八三	六八
同 五年	三六七	五四五	四八
同 六年(上半期)	五二〇	六九六	四〇

其實收率僅少ニシテ從ツテ鑛滓中ノ含銅多カルヘキヲ以テ今後其出鑛量ノ増加ニ伴ヒ勢ヒ器械選鑛ヲ要スヘキコトナリ

金煙鑛山 (大正六年七月平林技師巡回)

位置交通其他 本山ハ秋田縣鹿角郡小坂町ノ南端ニアリテ小坂驛迄ハ僅カニ數町ヲ距ツル縣道ノ傍ニアリ鑛石ハ全部小坂鑛山ニ送ルモノニシテ其運賃、如キモ百貫ニ付十錢乃至十二錢ニ過キス其交通及ヒ運搬共ニ極メテ便ナリ

本山ハ明治三十六年ノ頃試掘地トナリ其後二三ノ鑛主ヲ變更シタリ大正二年一月現鑛業權者板垣辰三郎之ヲ讓受ケ其翌年九月ヨリ探鑛ニ著手シ四年三月ヨリ出鑛セシモノニシテ鑛石ハ悉ク之ヲ小坂鑛山ニ販賣セリ而シテ昨大正五年度ノ產額ハ銅鑛百二十四萬二千五百七十二貫其價額八萬三千百七十八圓ナリト云フ目下ノ使役人ハ百三十三名ニシテ內坑夫五十五名ナリ

鑛區ハ探掘權登錄二七六號鑛種金、銀、銅、鉛三十萬六千七百坪ナリ

地質 地質ハ第三紀層及石英粗面岩ヨリ成ル

第三紀層ハ白色ノ凝灰岩及灰色ノ泥板岩ニシテ高サ三百尺許ノ臺地ヲ構成セリ其走向北西ヨリ南東ニ走リ或ハ北東ヨリ南西ニ走リ共ニ南方二十度位ノ緩斜ヲナセリ

石英粗面岩ハ淡灰色ニシテ中粒ノ長石及石英ヲ斑點ス此岩石ハ新坑內ニ少シク出テ又地表ニ於テハ臺地ノ東方懸崖ノ所ニ露出セリ

鑛床 鑛床ハ裂罅充填脈ニシテ目下著手セルモノ二條アリ大切坑及新坑ノ兩鑛之ナリ前者ハ其走向北東ヨリ南西ニ走リ南東ニ斜下セリ後者ハ約東西ニ走リ南方ニ斜下セリ大切坑ノ鑛ハ此坑道以上ハ地表迄近距離ニシテ嘗テ舊坑ニテ探掘サレアリ而シテ此地竝以下ニハ四十三尺ニシテ二坑道

ヨリ次ニ四十尺ニシテ三坑道更ニ七十尺ニシテ四坑道ヲ開鑿サレアルモ目下下底ハ水溜リトナレリ此鑛ハ石英脈ニシテ其內ニ黃銅鑛及黃鐵鑛アリ時トシテハ閃亞鉛鑛及重晶石ヲ伴フコトアリ而シテ坑道ノ上部ヨリハ品位佳良ノ輝銅鑛ヲ出シタルナリ鑛石ハ其幅四五寸ニシテ時々膨大シテ數尺ニ達スルコトアリ而シテ坑道ノ延長ハ約五百尺許リ開鑿サレアルモ鑛石ノ大部分ハ既ニ探掘サレ僅カニ所々ニ少シク龍頭ヲ殘セルノミ又新坑ハ百尺許リ開鑿シ小堅坑ヲ下セリ其掘下六十尺ナルカ之レ亦水溜リトナレリ如此ク兩鑛共ニ其下底ハ水沒セル爲メ鑛床ノ狀況ヲ詳カニスルコト能ハサルナリ又坑內ヨリ來ル粗鑛ハ三分及五分目篩ニヨリ之レヲ塊、粒、粉ノ三階級ニ區別セルカ粒及粉鑛ハ其儘賣鑛シ獨リ塊鑛ノミニ手選ヲナスニ過キス而シテ目下ハ鑛質佳良ナラサル爲メ粗鑛中ヨリハ塊及粒鑛二割、粉鑛三割、捨石五割ノ比ニテ選別セラルルナリ次ニ現鑛業權者ノ著手以來出鑛セシ粗鑛及精鑛ノ量及其含銅品位ヲ掲クレハ左ノ如シ

	粗 鑛		精 鑛	
	數	量(貫)	數	量(貫)
大正四年上半期	一二〇、七三五	七〇	九六、五八八	八・七
同 (四箇月間) 下半年期	七七五、二八二	四〇	五〇〇、九六五	六・二
同 五年上半期	九四五、一五九	三〇	七二七、三五五	三・九
同 同 下半年期	九一〇、二三七	一・八	五一五、二一七	三・一
同 六年上半期	九四九、九二二	一・三	四三三、〇五〇	二・九
吉乃鑛山 (大正六年七月平林技師巡回)				

位置交通其他 本山ハ秋田縣雄勝郡西成瀬村大字吉野ニアリ即チ奥羽線十文字驛ヨリ増田町ヲ經

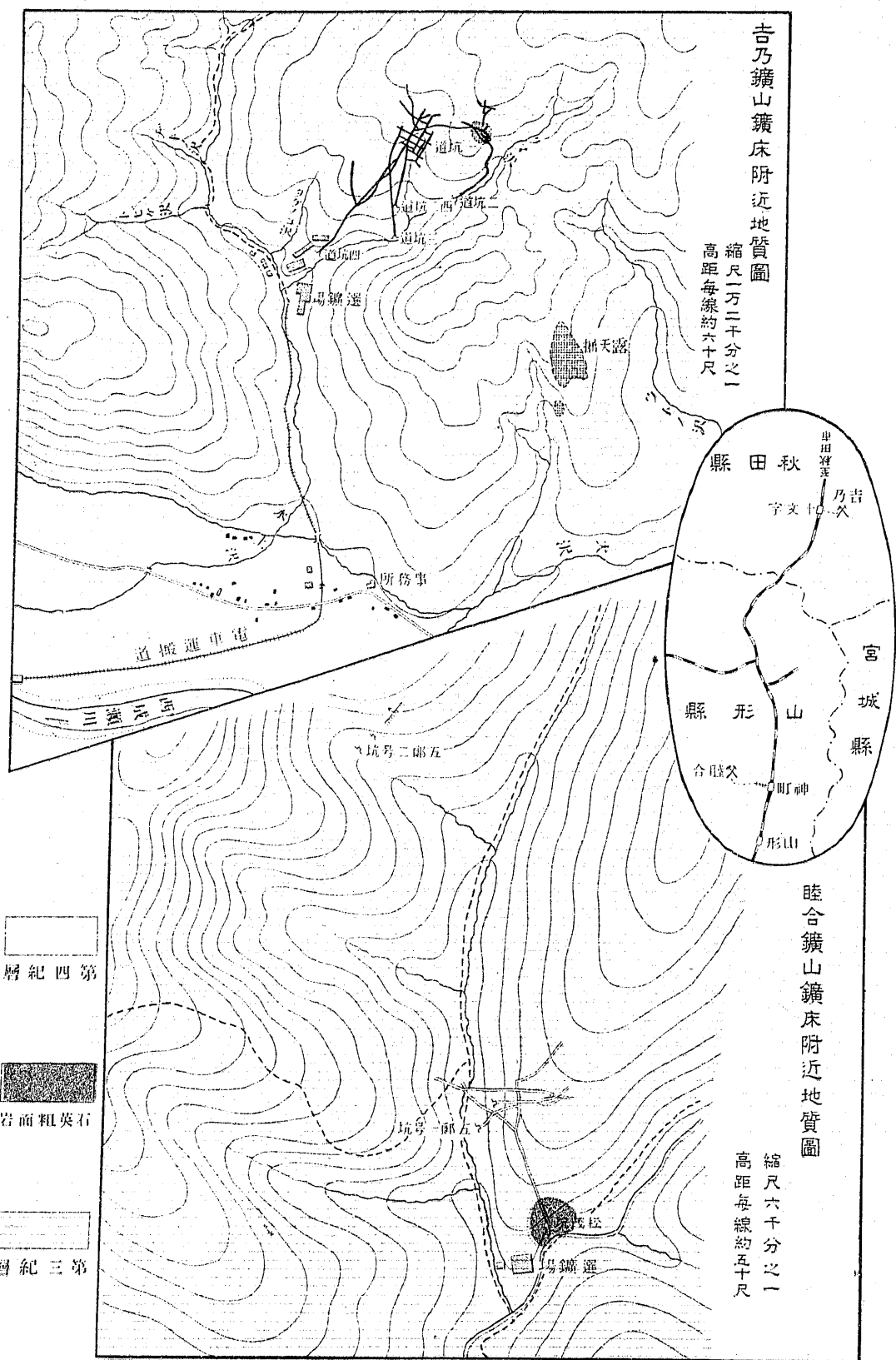
テ南東二里此間道路平坦ニシテ車馬ヲ通シ得ヘシ運搬ハ鑛山ヨリ十文字驛迄ノ間ハ鐵索ヲ架設シアリ其延長三六哩其運轉十八時間中ニ百噸ヲ運搬シ得ヘシ而シテ產出セル精鑛ハ悉ク之レヲ山本郡八盛鑛山ニ送レリ目下ノ採鑛所ハ大宇吉野ヨリハ北方水上澤ヲ溯ルコト六町許熊ノ澤ニアリ此間軌道ヲ敷設シ電車ニヨリ選鑛所及ヒ鐵索間ノ連絡ヲ取レリ故ニ其交通及運搬共ニ便ナリ

本山ハ明治四十年頃武田恭作之レヲ經營シ專ラ黑鑛ヲ採掘セリ大正三年一時休山セシモ其翌年現鑛業權者大日本鑛業株式會社ノ有トナリ再ヒ事業ニ著手セシニ四月熊ノ澤四番坑ニ於テ別種ノ鑛床ヲ發見シ爾來採鑛及選鑛ノ擴張ヲ行ヒタル結果大正五年度ノ產額ハ銅ノ精鑛四百三十一萬六千五十八貫黑鑛十一萬〇三百九十九貫重土質金銀鑛十九萬一千五百六十二貫ニシテ一躍重要鑛山ニ列スルニ至レリ目下當山ニ使役セル鑛夫ノ數ハ一千五百六十六名ニシテ其內三百五十四名ハ坑夫ナリ

鑛區ハ採掘權登錄第一六五號金銀銅鉛四十七萬二百五十坪ナリ

地質 地質ハ第三紀層ノ凝灰岩及泥板岩ニシテ其走向傾斜共ニ不明ナルモウどの澤ノ上流ニ於テハ其走向北三十五度西傾斜北東四十度ヲ示セリ又成瀬川ノ溪脈ニ沿フテハ第四紀層ノ臺地アリ地形ハ比較的高峻ニシテ樹木多カラス

鑛床 鑛床ニハ二種アリ一ハ黑鑛ニシテ交代鑛床ヲナシ他ハ細脈ノ縱橫ニ走レルモノニシテ新ニ發見セルモノナリ前者ハ從前稼行セシモノニシテ其大部分ハ既ニ採掘シ終レリ後者ハ目下盛ニ開坑セルモノニシテ其鑛床存在ノ區域ハ四坑道準ニ於テハ東西三百尺南北五百尺ニ達セリ又此坑道上百尺ナル三坑道準ニ於テモ此網狀脈ハ略ホ同一區域間ニ存シ尙ホ百尺高キ二坑道準ニ於テハ僅カニ一條ノ坑道ヲ通セルノミナレハ其廣袤ヲ詳ニセス又四坑道ヨリ以下ニハ其深サ百十尺ノ鑛坑



ヲ下シ其下底ニテモ多少探鑛セルカ坑内ノ模様ハ上部ト異ナレルコトナシ故ニ此鑛床ハ上下三百尺間ニハ確カニ存在セルモノト認識セラル此鑛床ノ東側ニハ約南北ニ走り東方七十度ニ斜下セル斷層アリテ幅十尺ノ粘土地ヲナセリ又西側ニ於テモ此レト同様ノ粘土アリテ西方ニ斜下シ爲メニ鑛床存在ノ區域ハ下部ニ赴ク程擴大セル傾向ヲ示セリ

以上ノ細脈ハ其幅一二寸ヨリ五六寸ニ及ヘルモノニシテ縱横ニ走り網狀ヲナセトモ其内南北ニ走レルモノ多數ヲ占ム而シテ母岩ノ凝灰岩ナル部分ニハ比較的脈ノ通過正シキモ若シ泥板岩ナル場合ニ於テハ極メテ不規則ナルヲ見ル又タ母岩ノ凝灰岩ナル場合ニハ其分觸甚シクシテ粘土化スルモ泥板岩ノ際ニハ硅化シ堅キ緻密質ノモノトナルナリ此等ノ細脈ハ皆ナ石英脈ニシテ其内ニ黃銅鑛及黃鐵鑛ヲ伴ヒ時トシテハ少量ノ閃亜鉛鑛方鉛鑛及重晶石ヲ伴フコトアリ而シテ上部ヨリ二坑道準迄ノ間ハ酸化鑛ニシテ其間ニ於テハ輝銅鑛ノ如キ品位佳良ノモノヲ出セリ

以上ノ網狀脈ヲナセル鑛床ヲ距ツル北東三百尺許ノ所ニ於テハ地表ヨリ黑鑛ノ玉石ヲ出タセリ其ノ存在區域ハ一坑道下五十尺即チ二坑道上五十尺ノ所迄及ヒタルモ網狀脈トハ全ク別種ノ鑛床ナリ其他ニ黑鑛ハ此鑛區内ニ於テハうどの澤ノ西方山上ニモアレトモ此所ニ於テモ現ニ大部分探掘セルモノナリ

當山ニ於テハ目下一日ノ出鑛高六萬貫其平均含銅品位一・八%之ヲ器械選鑛ニ附シ精鑛二萬乃至二萬三千貫ヲ得ヘク其品位四五乃至五%ニ達スト云フ尙ホ最近ニ選鑛所ヲ増築セルヲ以テ其竣工ノ曉ニハ一日二十萬貫ノ粗鑛ヲ處理スル計畫ナリト云フ

睦合鑛山 (大正六年七月平林技師巡回)

位置交通其他 本山ハ山形縣西村山郡西山村大字睦合ヨリ北方溪永ヲ遡ルコト二十町ノ所ニアリ

陸合ハ奥羽線神町驛ノ西方五里半此間縣道ニシテ内二里間ハ輕便軌道ヲ通セリ又陸合ヨリ鑛山迄ノ間モ運搬軌道アリ故ニ鑛石ノ運搬ハ陸合ヨリ谷地迄三里半ノ間ハ荷馬車ニヨリ他ハ軌道ニ依ル而シテ鑛山ヨリ神町驛迄ノ運賃ハ一噸ニ付二圓二十錢ヲ要セリ又神町驛ヨリハ之レヲ神戸ニ出タシウキリアムス商會ニ販賣スト云フ

本山ハ大正元年ノ發見ニシテ三年四月水谷徳次郎ノ有トナリ同年六月ヨリ事業ヲ開始セリ最初ハ五郎澤ニ於ケル金鑛ニ著手セシモ四年四月ニ至リ中止セリ又同年二月ヨリハ現大坑道タルヘキ松茂坑ヲ開キ專ラ亞鉛鑛ノ採掘ニ從事シ本年一月ヨリ株式會社ニ改メタリ而シテ大正五年ノ産額ハ亞鉛鑛一千二百八十一噸其價格七萬七千七百三十八圓ナリ目下使役人ハ百〇六名ニシテ其内坑夫三十七名ナリ

鑛區ハ採掘權登錄第一三三號金、銀、銅、鉛、亞鉛三十三萬七千五百坪ナリ

地質 地質ハ第三紀層及ヒ石英粗面岩ヨリ成ル

第三紀層ハ凝灰岩、泥板岩及ヒ砂岩ニシテ其内白色凝灰岩最モ發達セリ層理ハ判明セサルコト多キモ鑛區内ノ南部ニ於テハ凝灰岩及ヒ泥板岩ノ互層アリテ其走向北四十度西ニ走リ南西二十二度ニ斜下セリ地形ハ急峻ニシテ溪間ヨリ高距一千尺ニ達ス鑛山附近ノ地ハ樹木多カラス又溪水ノ量モ充分ナラサルナリ

石英粗面岩ハ灰白色ニシテ石英ノ班晶アルモ一見凝灰岩ト誤認シ易キモノナリ此岩石ハ松茂坑口附近ニ存ス(附圖參照)

鑛床 鑛床ハ裂罅充填脈ニシテ第三紀層中ニアリ從來稼行セルハ二號坑ノ金鑛脈及ヒ松茂坑ノ亞鉛鑛脈ナリ二號坑ハ採鑛事務所ヨリ北方五郎澤ノ支脈ニアリ事務所ヨリ高距二百五十尺許ノ所ニ

開坑セリ鑛脈ハ北三十度東ニ走リ北西七十度乃至八十度ニ斜下シ幅四寸許アリ此脈ノ上部ニ於テハ良鑛ヲ出タセリト云フ又此下方六十尺餘ノ所ニハ中切坑ヲ開鑿シアリ又松茂坑ハ事務所ノ附近ニアリ目下專ラ稼行セル亞鉛脈ニシテ其走向北七十五度東傾斜ハ鑛脈ノ上部ニテハ北西ニ急斜セルモ下部ニテハ南東ニ急斜セリ其ノ一部分ニハ走向斷層ヲ伴ヘリ鑛石幅ハ從來開鑿セル坑道ノ延長約四百餘尺間ヲ平均セハ其幅一尺五寸乃至二尺アルヘシ而シテ此脈幅ハ其變動甚シキモノニシテ膨大スレハ十五尺ニ及ヒ狭小セハ五寸位トナル鑛石ハ褐色ノ閃亞鉛鑛ニシテ脈石ノ量極メテ少キ爲メ無選鑛ニテ精鑛トナルヘキ部分多ク其品位極メテ可良ニシテ四十以上五十%アリ稀ニハ六十%ニ達セリ然レトモ脈中ノ西部ニ於テハ亞鉛鑛中ニ黃銅鑛ヲ混入シ來リ西スルニ從ヒ増加スヘキ傾向ヲ示セリ目下鑛脈ニ沿ヒ坑道ノ開鑿セルモノ四百尺以上アリ其内二個所ニ富鑛部ヲ存セリ西面ニアルモノ其幅平均六尺延長三十尺許ノ圓筒狀ヲナシ松茂坑道上百三十尺許ナル五郎坑道準ヨリ松茂坑道下百尺許ノ掘下ニ及ヘルモノニシテ此富鑛部ノ落トシハ斜西ニ急斜セリ又東ノ富鑛部ハ其幅十尺餘ニ膨大セルモ其延長及ヒ落トシノ方向等ハ判然セス

選鑛ハ溪水ヲ引用シテ小形跳汰機ハンチントンミルウキルフレ一汰盤ヲ運轉セルモ其水量不足勝ナル爲メ目下ハ主トシテ箕揚ニヨリテ選鑛ヲナセリ今昨年下半年期及本年上半期ノ平均數ヲ掲クレハ左ノ如シ

粗 鑛 精 鑛

數量(噸) 品位(%) 數量(噸) 品位(%)

大正五年下半年期	三〇三一	一六	六六七	四七
同 六年上半期	二九一一	一五八	一、〇〇三	四八

(但シ一月ニハ休業セリ)

於福鑛山 (大正六年五月平林技師巡回)

位置交通其他 本山ハ山口縣美禰郡於福村大字於福下ニアリテ美禰郡伊佐町ヨリ大津郡仙崎町ニ通スル縣道ヨリ西ニ入ルコト八町許ノ所ニアリ此間車馬ヲ通シ得ヘシ故ニ其交通及運搬共ニ便ナリ

本山ハ最近現鑛業權者小栗ヨネノ讓受ケシモノニシテ鑛石ハ手選ノ上其精鑛ノミハ當所ニ於テ製鍊ヲナシ又手選滓ハ佐賀關ニ於ケル久原製鍊所ニ賣鑛セルモノナリ即チ精鑛ハ目下極メテ粗製ノ高爐ニヨリ熔解セラルルモノニシテ其製品ハ日光熔銅所ニ送レリ其含銅品位九八五乃至九八七ニシテ外ニ百萬分ノ二内外ノ金ト萬分ノ三乃至四ノ銀分ヲ含有セリト云フ又手選滓ハ本年三月以後佐賀關ニ送ルモノニシテ山麓ヨリ馬車ニテ一里餘南方ナル重安ニ出タシ輕便軌道ノ便ヲ借リテ伊佐ニ送り更ニ鐵路小野田驛ニ出タシ帆船ニテ之ヲ佐賀關ニ送ルモノナリ其運賃百貫ニ付一圓三十五錢ヲ要ハト云フ目下使役人ハ百二十一名ニシテ内坑夫三十九名ナリ

本山昨年ノ產額ハ粗銅十六萬一千七百二十二斤ナリ又本年一月ヨリ四月ニ至ル四箇月間ノ產銅額ハ三萬五千二百三十四斤ニシテ賣鑛高ハ本年三月以後ノ分ハ塊鑛十九噸粉鑛三十三噸其ノ品位前者ハ銀〇〇一一銅一三九後者ハ銀〇〇一三銅三三七ナリ

鑛區ハ探掘權登錄第四五號鑛種銅三十萬一千七百三十一坪ナリ

地質 地質ハ中生層及石英モンゾナイト岩ヨリ成ル

中生層ハ泥板岩、珪岩及石灰岩ニシテ其走向北十度乃至二十度東傾斜南東六十度位ノ單斜褶曲ヲナセリ地形ハ珪岩ハ凸出シテ中央ノ高地ヲ占メ其東西兩溪ニ向ヘル部分ニハ泥板岩發達セリ(附圖參

照而シテ石灰岩ハ珪岩中ニ介在セリ此岩石ハ地表ニハ露出ナキモ坑内ニ於テハ其幅三十尺許アリ多少扁豆狀ヲナセルモノト考ヘラル其質ハ白色糖晶質ニシテ鑛床ノ母岩ヲナセリ

石英モンゾナイト岩ハ中生層ノ東麓低平ナル丘陵地ヲ構成セリ其表面常ニ甚シク分解シ粗鬆ナル砂狀ト化セリ然レトモ其内ヨリハ時ニ堅硬ナル玉石ヲ出タセリ質ハ中粒或ハ細粒ニシテ顯晶質ノ岩石ニシテ一見花崗岩ノ如キモ其薄片ヲ鏡檢セハ有色鑛ハ黑雲母ノ外ニ綠色ノ角閃石アリ又斜長石ノ量ハ正長石ヨリ遙カニ多數ナルヲ以テ角閃花崗岩ヨリハ寧ロ石英モンゾナイト岩ト命名スル方適當ナリト認メタリ此岩石ト中生層トノ接觸部附近ニ於テハ泥板岩ハ甚シク分解セル爲メ接觸作用判明セサレトモ此岩石ハ多分中生層ヲ貫ケルモノナラント想像セラル

鑛床 鑛床ハ變質交代鑛床ニシテ珪岩及石灰岩中ニ塊狀ノ鑛床ヲナシ中切坑道準ニ於テ珪岩中ニアルモノハ其探掘跡東西ニ百尺南北ニ百五十尺許ノ區域ヲ占メ居レルモ母岩トノ境界ハ固トヨリ判然セルモノニアラス尙ホ此鑛塊ヨリ西方ニ二十尺許ノ珪岩ヲ挿ミテ其幅三十尺ノ石灰岩アリ其内ニモ亦一ノ鑛塊ヨリ其大サ東西ニ二十尺南北ニ五六尺ノ區域ニテ斜ニ南落トシヲナセル圓筒狀ノ鑛塊ヲ藏セリ此鑛塊ハ中切坑道上九十尺ノ所ニ開坑セル本坑道地竝ヨリ錘押ニテ掘下レルモノニシテ其大部分ハ既ニ探掘セラル以上二個ノ鑛塊ノ外向ホ東方ノ珪岩中ニハ成層面ニ沿ヒ層狀脈ヲナセルモノアルナリ由來此種ノ鑛床ハ火成岩ノ附近ニ胚胎サルル事多キモノナレトモ本山ニ於テハ未タ之レヲ發見セス而シテ本山ニ北隣セル山上鑛山ニ於テハ當山ト同一ノ地質及ヒ鑛床ニシテ此所ニ於テハ鑛床ハ石英モンゾナイト岩ノ接觸部ニ胚胎セラル此等ノ事實ヨリ本山ノ鑛床モ亦恐ラク此岩石ト關係アルヘキモノト推測セラルナリ

鑛石ハ黃銅鑛及ヒ其酸化鑛タル斑銅鑛孔雀石及ヒ珪孔雀石等ナリ此等ノ酸化鑛ハ主トシテ鑛床ノ

上部ナル本坑道準ヨリ出ツルモノナルモ亦稀ニハ中切坑道準ヨリ出ツルコトアリ又鑛床中ノ或ル部分ニ於テハ可ナリ多量ノ閃亞鉛鑛及ヒ方鉛鑛ヲ出タシ又或ル部分ニ於テハ黃銅鑛ト共ニ石灰重石ヲ出タセリ此石灰重石ハ手選ノ際特ニ注意シテ採集サレアルモノニシテ其試料分析ノ結果金屬重石トシテ二十二%ニ達セリト云フ然レトモ少量ニ含有セル部分ハ實際廣カルヘキヲ以テ若シ之レニ器械選鑛ヲ施セハ容易ニ副物產トシテ高價ノ重石鑛ヲ獲收スルコトヲ得ヘシ其他鑛石中ニ最も多キモノハ石英ニシテ方解石輝石及ヒ柘榴石モ亦可ナリ多量ニ伴隨セリ而シテ鑛石ノ品位ハ去ル四月中製鍊ヲ爲セシ元鑛ノ平均ヲ見レハ銅五一、二、鐵一二、硅酸五五%ナリ一般ニ此種鑛床ノ鑛石ハ中性ナルモ本山ニ於テハ石英ノ發達甚シキ爲メ其質酸性ニシテ之ヲ製鍊スルニ際シテハ鹽基性ノ熔劑ヲ要セルナリ

上記ノ鑛塊ヨリ北方一千尺ヲ距ツル所ニ於テ最近發見セシ露頭アリ硅岩中ニ層狀脈ヲナシ其幅六尺以上アリ黃銅鑛斑銅鑛其他酸化鑛ノ外輝石柘榴石石英硅灰石等ヲ伴隨セリ其ノ位置略ホ本鑛床ノ鑛先ニ當レリ又中切坑道下三百尺許ノ所ニ開坑セル蓬萊坑道ノ引立ニ於テモ亦硅岩中ニ其幅三尺ノ層狀脈アリ此者ハ彼ノ中切坑道ニ於テ鑛塊ヨリ東方硅岩中ニ層狀脈ヲナセルモノノ一ナルヘシ

重德鑛山 (大正六年五月平林技師巡回)

位置交通其他 本山ハ山口縣大津郡日置村字畑ニアリ古市町ヨリハ南方約二里此間ノ道路ハ不良ナルモ車馬ヲ通シ得ヘシ故ニ其交通及運搬共ニ稍々便宜ナリ

本山ハ口碑ニ從ヘハ以前ニハ礬石ヲ採取シタリト云フ其後銅鑛ヲ發見シ屢々鑛主ヲ變更セルモ何レモ稼行スルニ至ラス而シテ一昨年三月現鑛業權者池内聰一郎之ヲ讓受ケシ以來銅鑛ト共ニ其内

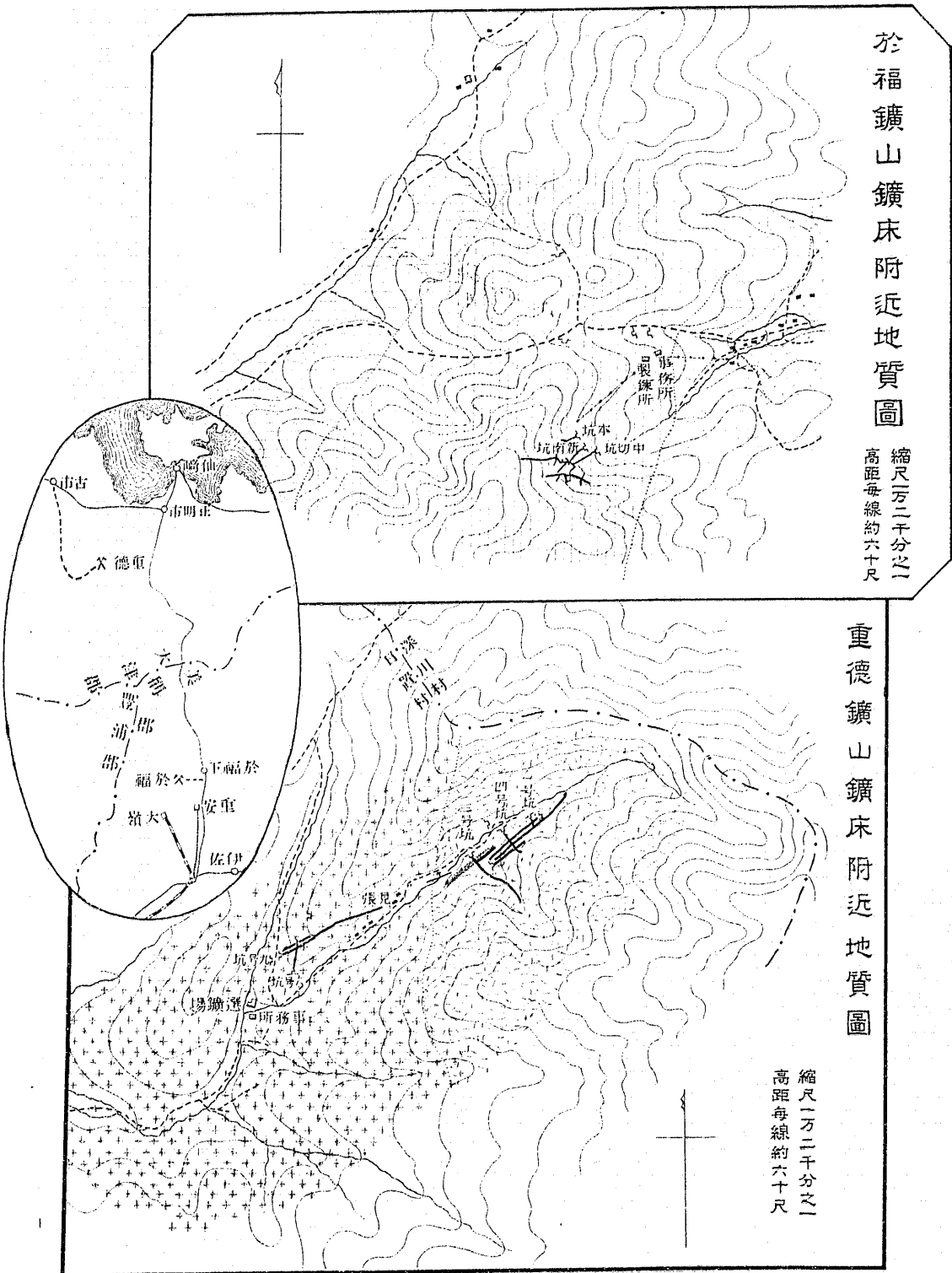
於福鑛山鑛床附近地質圖

縮尺二万二千分之一
高距每線約六十尺

重德鑛山鑛床附近地質圖

縮尺二万二千分之一
高距每線約六十尺

- 岩板泥
- 岩 硅
- 岩石英モナ
- 岩 崗花
- 岩斑崗花
- 肌岩岩山安



ニ其雜セル重石鑛ノ探掘ニ著手セルモノニシテ大正五年度ニ於テハ重石ノ精鑛六千八百九十四貫其價格六萬六千四百四十七圓及ヒ銅ノ精鑛五萬二千百九十六貫其價格三萬一千三百十七圓ノ產出アリ又々本年一月ヨリ四月迄ノ間ニ於テハ重石ノ精鑛一千四百二十貫銅ノ精鑛一萬三千〇五十六貫ナリ

右ノ内重石鑛ハ馬車積トナシ之ヲ南方十二里ナル美禰郡伊佐驛ニ出タシ更ニ鐵路東京ニ送ルモノナリ其運賃ハ鑛山ヨリ伊佐驛迄一噸ニ付七圓六十錢伊佐東京間十圓ヲ要スト云フ又々銅鑛ハ鑛山ヨリ荷馬車ニテ北東東四里半ヲ距ツル仙崎港ニ出タシ更ニ汽船積ニテ廣島縣契島製鍊所ニ送ルモノナリ其運賃鑛山ヨリ仙崎港迄百斤ニ付十二錢仙崎港ヨリ契島製鍊所迄三十三錢即チ合計一噸ニ付七圓六十五錢許ニ當ルナリ

目下本山ニ於ケル使役人ハ百四十名ニシテ其内坑夫三十二名ナリ鑛區ハ探掘權登錄第二九六號鑛種銅、重石、十六萬八千坪ナリ

地質 地質ハ花崗岩及花崗斑岩ニシテ之ヲ貫キテ安山岩ノ岩脈アリ(附圖參照)

花崗岩ハ白色中粒ノ黑雲母花崗岩ナルモ黑雲母ノ量ハ多カラス而シテ鑛區ノ東方ニ於テハ此花崗岩ハ漸次斑晶質トナリテ花崗斑岩ニ漸遷セリ然レトモ此岩石中ニハ黑雲母ヲ含メルコト少キヲ以テ石英斑岩ノ如キ外觀ヲ呈セリ

安山岩ハ岩脈ヲナシテ三號坑内ニ出ツ其幅二十五尺許アリ其走向北七十度西傾斜北東七十度ニシテ明カニ鑛床ヲ切斷セルヨリ見レハ無論其生成後ニ貫入セルモノナリ此岩石ハ帶綠暗黑色緻密質ノモノニシテ其薄片ヲ鏡檢スル時ハ斜長石、普通輝石及ヒ磁鐵鑛ヨリ成リ多少輝綠岩樣ノ構造ヲ呈セル輝石安山岩ナリ

鑛床 鑛床ハ裂罅充填脈ナレトモ一部ベグマタイトの性質ヲ帶ヘルモノニシテ高熱ノ瓦斯或ハ液體ヨリ生成サレタルモノナリ。鑛石ハ石英ニシテ之ニ少量ノ白雲母ヲ伴ヒ稀ニハ長石ヲ見ルコトアリ。此内ニ金屬鑛物トシテ見出サルルモノハ黃銅鑛、砒、磁鐵鑛、鐵、滿俺、重石及黃鐵鑛ニシテ稀ニ石灰重石及輝水鉛鑛ヲ見ルコトアリ。

鑛脈ハ三條アリテ相竝行スレトモ主要ナルモノハ本鑛ト稱セル中央ノ一條ノミ、其走向北五十七度東傾斜北西六十度幅五寸乃至一尺延長千九百尺ニ及ヘリ。此區間ニ於テハ二箇所ニ鑛部アリ其内西方ノモノハ九號坑内ニ於テ長七十尺深サハ露頭部ヨリ目下ノ最下底タル下一番坑道迄約二百四十尺間ニシテ此富鑛部ハ斜ニ北東ニ落トシ居レリ又東方ノモノハ一號坑内ニ於テ之ヲ見ルコトヲ得ヘク其延長四百尺ニ及ヒ前者ト同シク斜ニ北東ニ落トシヲナセリ。

鑛脈ハ石英脈ニシテ銅鑛及重石鑛ハ不規則ニ其内ニ散在シ或ハ特ニ脈ノ中央部ノ所ニミ見出サル。此場合ハ特ニ石英脈狀ノ構造ヲ呈シ結晶ヲナセル際ニアリテハ白雲母ヲ伴ヘリ。此重石鑛ハ常ニ必スシモ銅鑛ニ伴ハス單獨ニ石英脈中ニアルコトアリ又銅鑛モ石英脈中ニ不規則ニ散在シ或ハ此者ノミニテ脈狀ヲナシ石英脈ト兩々相竝ヘルコトアリ而シテ此石英脈ハ普通ノ裂罅充填脈ニ於ケル如ク決シテ帶狀構造ヲ呈セサルヨリ見ルモ高熱ノ瓦斯或ハ液體ヨリ生成セラレシモノト推測セラルルナリ。

鑛石ハ坑内ヨリ出鑛セルモノノ内ヨリ岩石片若シクハ不良ナル部分ヲ取去リタルモノヲ粗選鑛ト稱セリ。此粗選鑛ハ本年一月ヨリ四月迄四箇月間ノ平均ニヨレハ出鑛高ノ約六十五%ニ當タリ其品位ハ重石酸トシテ三%、銅三%位ナリト云フ。此粗選鑛ハ碎鑛機、輾轉機及ヒハンチンドンミルニヨリ漸次細末ニ碎カレ更ニ汰盤ニヨリテ銅鑛及重石鑛ヲ區別スルモノニシテ重石鑛ノミハ更ニ鐵盤上

ニテ燒キ馬蹄鐵ヲ用キテ銅及鐵分ヲ去リ精鑛トナセルモノニシテ其品位ハ昨年ノ平均數七十二%又本年一月ヨリ四月迄ノモノ七十%ナリ又銅鑛ノ品位ハ昨年ノ分二十%、本年ニ入リテヨリハ十八乃至二十%ナリ。

川井山鑛山 (大正六年五月平林技師巡回)

位置交通其他 本山ハ山口縣阿武郡生雲村大字藏目喜ニアリ萩町ヨリ南東東七里弱此間縣道ニシテ車馬ノ通行容易ナルモ其途中松木峠及砂堂峠ノ坂路アリ其運賃ハ百斤ニ付十七錢ヲ要スト云フ。目下當山ニ所要ノ骸炭及石炭等ハ皆此方面ヨリ來ルモノナリ然レトモ本年末ニ及ヘハ山口ヨリ津和野ニ通スヘキ山口線ハ恰モ當山ヨリ南東二里強ナル宇三谷迄通スヘキ豫定ナルヲ以テ今後物資ハ却テ此方面ヨリ來ルコトナルヘク大ニ便宜ヲ得ルニ至ルヘシ。

本山ハ從來林安次郎ノ稼行セシモノナルカ昨年六月現鑛業權者古河合名會社ノ讓受クルトコロトナリ爾來特ニ探鑛ニ留意セシモノナリ次ニ本年一月ヨリ四月迄四箇月間ノ產額ヲ掲クレハ粗銅十三萬五千四百三十七斤、銀百四十貫、金三十四匁餘外ニ亞鉛精鑛八十噸餘ナリ其内粗銅ハ萩ヨリ汽船積ニテ大阪ニ出タシ更ニ汽車便ニテ日光精銅所ニ送レリ又亞鉛鑛ハ小野田ナル高千帆製鍊所ニ送レリ。

目下本山ニ使役セル人員ハ坑夫八十七名、手子二十六名、選鑛ニ五十二名、製鍊ニ五十六名、其他六十四名合計二百八十五名ナリ。

鑛區ハ探掘權登錄第二十七號、鑛種銅、鉛、亞鉛五萬九千三百五十八坪ニシテ外ニ探掘權登錄第一六〇號銅、鉛二十五萬六千八百七十七坪及探掘權登錄第一六一號銅一萬三千四百四十坪ヲ買收シ最近更ニ探掘權登錄第一三二號銅十萬四千五百三十一坪及探掘權登錄第一三三號銅七萬一千四百三十七坪

ヲ合併セリ

地質 地質ハ古生層及之ヲ貫キテ岩脈ヲナセル石英粗面岩角閃安山岩及輝石安山岩アリ又鑛區ノ北方ニ於テハ更ニ之ヲ被覆シテ玄武岩ノ熔岩流アルナリ(附圖參照)

古生層ハ石灰岩及粘板岩ニシテ其走向北二十度乃至二十五度東傾斜南東五十度乃至七十度ナリ此石灰岩ハ白色微晶質ニシテ至厚ノ發育ヲナセルモノニシテ生雲村ニ於テハ盛ニ採掘シテ消石灰ヲ製セリ此岩石ハ此地方一圓ニ廣ク賦在セルモノニシテ鑛山附近ニハ其高二三百尺ノ小臺地ヲナセリ又々粘板岩ハ僅カニ藏目喜村落ノ所ニ少シク其露出セルヲ見得ヘキノミ

石英粗面岩ハ鑛區内ニ於テハ僅カニ金城郷^{キンジョウ}ニ沿ヒ岩脈トシテ出ツ此岩石ハ地表ニハ其露出ヲ見ス唯ダ舊坑内ヨリ掘出セル廢石中ヨリ之ヲ見出スモノニシテ白色ニシテ石英ノ小斑晶ヨリ石基ハ微晶質ナリ

角閃安山岩ハ綠色或ハ灰綠色ニシテ角閃石ノ多量ヲ認メ得ヘキノナリ此岩石ハ本鑛大版鑛及一號鑛等ニ沿ヒ岩脈ヲナセリ

輝石安山岩ハ黑色ノ玻璃質石基中ニ淡黃色ノ長石ヲ斑點セルモノニシテ鏡下ニ於テハ斜長石ノ外多量ニ普通輝石ヲ含有セリ此者ハ生雲ヨリ字銅^{ジドウ}ニ至ル縣道ノ傍ニ岩脈ヲナセルモノニシテ鑛床ヲ伴ハサルナリ

玄武岩ハ帶青暗灰色緻密質ニシテ極メテ多量ニ橄欖石ヲ含有シ熔岩流ヲナセルモノナリ當山ニ於テハ製鍊所等ノ石材ニ使用シ居レリ此岩石ハ鑛床トハ全ク關係ナキノナリ

斷層ハ地表ノ全部ハ石灰岩ナルヲ以テ判明シ難キモ藏目喜村落ノ溪流ハ岩石ノ分布ヲ見ルモ明カニ東西ニ走レル斷層ノ存在ヲ示セリ其他小字松尾ノ谷及狐塚ノ谷ノ如キモ之ト略ホ同方面ニ走レ

リ恐ラクハ又斷層ノ存在セルモノナランカ

鑛床 鑛床ハ變質交代鑛床ニシテ石灰岩ト石英粗面岩或ハ角閃安山岩トノ接觸部ニ胚胎セルモノナリ本山ノ鑛區内ニアル主要ナル鑛筋ハ六條アリ何レモ相竝行シテ北二十度乃至三十度西ノ走向ヲ有セリ今之レヲ東方ヨリ數フレハ左ノ如シ

金城郷鑛 舊坑及舊坑ヨリ出テシ廢石若クハ口碑ニ因レハ鑛床ハ石英粗面岩ノ岩脈ニ沿ヘルモノニシテ此岩脈ハ幅五十尺乃至七十尺ヨリ西方六十度ニ斜下セリト云フ

大版鑛 前者ノ西方千六百尺許ノ處ニアリ小字松尾ノ谷ニハ其露頭ヨリ此鑛ハ大部分分解セル角閃安山岩ノ岩脈ニ沿ヘル鑛床ニシテ北四十五度西ニ走リ南西ニ斜下セリ又舊坑内ヨリ出テシ廢鑛ノ内ニハ綠簾石多ク之ニ伴フテ閃亞鉛鑛及方鉛鑛アリ

川井山鑛 大版鑛ノ西方四百二十尺ノ所ニアリ此者ハ當山ニ於テ目下稼行セル唯一ノ鑛筋ニシテ角閃安山岩ノ岩脈ニ沿ヒ其上下兩盤際ナル石灰岩トノ接觸部ニ胚胎セル此岩脈ハ北二十五度西ニ走リ西南六十度位ニ斜下シ其幅上部ニ於テハ二十尺乃至四十尺ナルモ下部ニ赴クニ從ヒ多少廣クシテ其幅四十尺乃至五十尺ニ及ヘリ此岩脈ノ上盤際ニアルモノヲ本鑛トシ下盤際ノモノヲ裏鑛ト稱シ居レリ目下開坑シアルハ一番坑ヨリ以下五番坑迄ニシテ地表ヨリハ直下四十尺ニ及ヘリ又走向ニ沿フテハ南北一千尺ノ間開坑シアルナリ

一號鑛 又角閃安山岩ノ岩脈ニ沿ヘルモノニシテ川井山鑛ノ西方百七十尺許ノ處ニアリ此岩脈ノ南端ハ藏目喜ノ村落ニ露出セルモノニシテ諸所ニ於テハ其走向北三十五度西傾斜北東八十度幅六尺ノ岩脈ナルモ甚シク分解シテ粗鬆質トナレリ此岩脈ニ沿ヒ多少ノ探鑛ヲ爲シアルモ未タ鑛石ニ會セス又川井山鑛ノ四番坑道ヨリハ西向鑛入百四十五尺ノ所ニテ恰モ此岩脈ニ會

セリ其走向北三十度西傾斜北東ニシテ幅五尺アリ尙ホ之レニ沿ヒ多少探鑛セルモ之レ亦鑛石ニ會セサルナリ

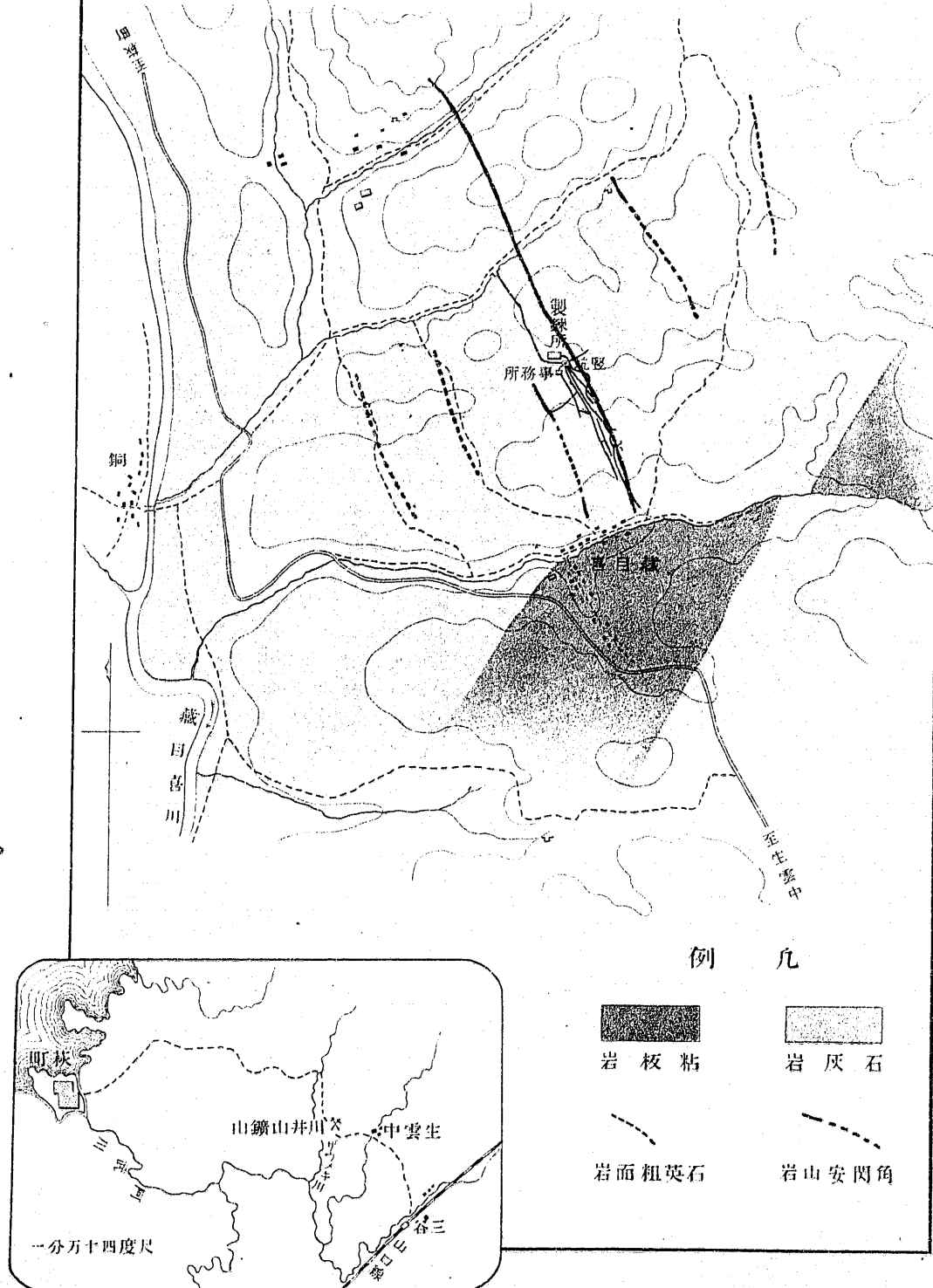
其他口碑ニ據レハ一號鑛ノ西方五百六十尺位ノ所ニ二號鑛アリ更ニ其西方一千四百五十尺邊ニハ四本松鑛アリト云フモ要スルニ此等ハ主トシテ口碑及舊坑ノ遺跡ニ基ケルモノノ如シ川井山鑛ハ前記セル如ク岩脈ヲ挿ミテ本鑛裏鑛ノ兩鑛アルモ時トシテハ此岩脈中ニモ細キ脈狀ヲナセル鑛石ヲ見ルコトアリ本鑛ハ裏鑛ニ比シテハ其幅狭クシテ一二尺ヨリ膨大スルモ八尺ニ過キサルモ裏鑛ハ普通ニハ五六尺膨大セハ二十尺ニ及フコトアリ概シテ岩脈ノ上下兩磐際ニ胚胎セル鑛床ニ於テハ其岩脈力直立セサル限リハ下磐ノ方ハ上磐ノモノニ比シテ大ナルヲ常トセリ本山ノ如キハ蓋シ其適例ノ一ナルヘシ鑛石ハ黃銅鑛及斑銅鑛ニシテ外ニ閃亞鉛鑛方鉛鑛黃鐵鑛柘榴石石英及方解石ヲ伴ヒ又孔雀石、硅孔雀石ノ如キ酸化鑛アリ此等ノ酸化物ハ地表下三百四十尺ナル四番坑道迄ハ其存在ヲ認ムルコトヲ得ヘシ選鑛ハ坑内ヨリ掘出セル粗鑛中ヨリ少シク岩石片ヲ摘出スルニ過キス今本年一月ヨリ四月ニ至ル四箇月間ノ成績ニ照セハ粗鑛中ヨリ精鑛ノ實收率ハ九十一%餘ニシテ其含銅品位ハ平均二・一八ニ當レリ而シテ精鑛ノ成分ハ略ホ銅二・五、銀〇・〇一、〇・〇一五、亞鉛四・一八、鉛二・一四、硫酸四・〇、鐵一・〇一、一・五、礬土六・一七、石灰二・〇一、二・五、苦土〇・五、硫黃(?)%位ナリト云フ

坑内ニハ湧水強ク目下一分間四十五立方尺ナルモ六月及九月ノ如キ降雨多キ際ニハ一時ニ三四倍ノ増水ヲナスコトアリト云フ前ニモ記載セシ如ク藏目喜村落ノ谷ハ約東西ニ走レル斷層ニシテ之レヲ通シテ溪流アリ故ニ此地表水ハ多量ニ坑内ニ浸入スルモノナルヘク近時此川底ニ混泥土ヲ施シ其浸入ヲ防ケルモ元來斷層面ヲ通セルヲ以テ完全ニ流水ノ浸滲ヲ防クコトハ難事ナルヘシ目下

川井山鑛山鑛床附近地質圖

縮一尺二萬二千分一

高距線每線約二百二十尺



坑内ニ於テハ一番坑以下三番坑道迄ノ鑽石ハ大部分既ニ探掘サレシヲ以テ今後ハ三番坑道以下ヲ探掘セサルヘカラス又坑内ノ開坑ハ約一千尺ニシテ其南端ハ正ニ藏目喜谷ニ達セリ而シテ此鑛床ハ明カニ北方ニ連續セルモノニシテ此所ヨリ北方一千五百尺許ヲ距テテ之レカ先ナル探掘權登錄第一三三號鑛區内ニ於テハ嘗テ狐塚鑛山トシテ稼行セシコトアリ其際ニハ頗ル良鑛ヲ出セシモ湧水多量ナル爲メ中止セシモノナリ要スルニ當山ノ鑛床ハ頗ル長キ走向ヲ有セルモノニシテ又下底ニ向ツテモ比較的連續セル傾向ヲ有セリ加フルニ其鑛石ハ之ヲ熔解スルニ容易ニシテ且ツ熔劑ヲ要セサルナリ故ニ當山ハ其排水ニ困難セサル期間ハ稼行至難ナラスト考ヘラル

姪濱炭礦 (大正六年五月今泉技手巡回)

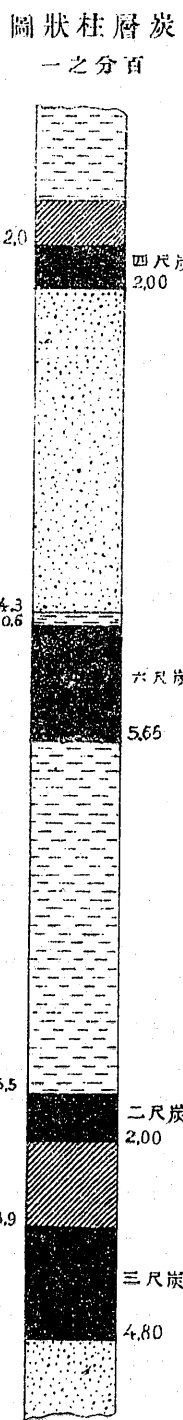
位置交通其他 福岡縣早良郡姪濱町原村壹岐村ニ互リ西ハ十郎川東ハ室見川ヲ界トシ南ハ鷺尾山ニ限ラレ北ハ姪濱町ヲ經テ博多灣ニ面ス九州鐵道博多驛ヲ去ル西方約二里ニシテ北筑軌道ノ便アリ坑口ハ博多灣ニ面スル一小丘山麓海岸ニ瀕スル稀ニ見ル運搬至便ノ地ニアリ運搬ハ海岸ニ設置シタル棧橋ニヨリ直ニ帆船ニ積込コトヲ得ヘシ然レトモ海深ク遠淺ニシテ汽船ノ繫留ニハ便ナラス

本山ハ明治四十五年四月田中猪作外三名試掘權ヲ得試錐ノ結果四尺六尺二尺三尺ノ各炭層ヲ發見シ大正三年一月探掘權ヲ得同年十二月現鑛業權者姪濱炭鑛株式會社ノ經營スル處トナレリ鑛區ハ探掘權登錄第八五八號ニシテ坪數九十三萬三千二百坪ナリ

地質 地質ハ第三紀層ニシテ海岸一帶ノ丘陵地ヲ構成シ岩石ハ主トシテ砂岩泥板岩及礫岩ノ交層ヨリ成リ殊ニ淡青色ノ砂岩ハ海岸ニ露出シ所謂姪濱石トシテ知ラレタル低廉ナル石材ナリ第四紀層ハ室見川以西ノ低地及ヒ博多灣海底ヲ爲シ主トシテ泥土砂等ヨリナリ第三紀層ヲ覆フ南方及ヒ

西方ハ脊振山系ノ花崗岩北方殘島ニハ安山岩其他ノ火成岩ヲ見レトモ本山ノ炭層ハ直接ノ影響ナキモノノ如シ

炭層 炭層ハ砂岩泥板岩等ト互層ヲナス次ノ炭柱圖ニ其ノ主要ナルモノヲ示ス但シ六尺炭ニハ約三枚七寸餘ノ狹ミアリ



炭層ノ走向ハ肩部ニ於テ約東西傾斜ハ三度乃至四度南ニ斜下スルヲ普通トスレトモ坑道掘進ノ結果ヨリ見ルトキハ其走向及傾斜ハ稍變シ傾斜ノ方向ハ南ヨリ西方ニ轉シ稍急角度ヲ呈ス斷層到テ少ナシ坑口附近ニ一斷層アルヲ認ムルモノノミ左ニ

目下探掘セル六尺層石炭ノ分析表ヲ舉ク(但シ會社ノ提示シタルモノニ由ル)

水分

揮發物

固定炭素

灰分

硫黃

發熱量(トムサン氏法)

二、二一 四二、四四 % 四五、五二 % 七、五〇 % 四、〇五 % 六、八六(カロリ)

採炭ノ方法ハ手掘ニシテ殘柱式ヲ採用シ運搬坑道ニハ軌條ヲ敷設シ汽筒徑十四吋一臺同十六吋一臺ノ複汽笛曳揚機ヲ以テ坑外ニ搬出ス選炭ハ萬斛十三臺一日ノ選炭能力約六百噸ヲ以テ選別シ又別ニ手選帶ニヨリ塊中粉ノ三種ニ分ツ此選炭能力一日七百噸ナリ洗炭機一臺ヲ備ヘ海水ヲ便シ一日百五十噸ノ粉炭ヲ處理セリ坑内湧水ハ地勢ノ關係ニヨリ多少ノ鹽分ヲ含ミ一分間四十立方尺内外ヨリ之カ排水ハ汽筒徑十八吋乃至十四吋ノスベシャル唧筒三臺及十二吋十吋八吋同型ノモノ數

臺ニヨリ排水セリ通氣ハ現今坑内未タ比較的淺ク爆發瓦斯ノ發生ヲ認メサルニヨリ自然法ニヨレリ原動力ハ汽力ニヨリ徑六尺長二十五尺ランカシヤイヤ式汽罐二臺同徑七尺長三十尺ノモノ四臺ヲ備フ大正六年三月末ニ於ケル鑛夫數ハ約千四百人ニシテ採炭夫一日ノ賃金最高一圓五十錢最低八十錢ナリト云フ一般炭界ノ好況ト共ニ何レモ炭鑛モ勞働者ノ缺乏スルヲ常トスルモ本山ニ於テハ寧ロ増加ノ傾向アルノ奇異ナル現象ナリトス要スルニ其地理大都市ニ接シ交通至便ナルカ爲ナルヘシ

出炭量ハ一日八百噸内外ナリ(本年五月)大正五年中ニ使用シタル坑木使用高八十一萬二千二百七十五本價格一萬六千七百七十七圓〇六錢ニシテ石炭一噸當リ七錢ヲ超ヘスト

福岡炭礦 (大正六年五月今泉技手巡回)

位置交通其他 福岡縣早良郡西新町姪ノ濱島飼樋井川原村二町二ヶ村ニ互ル區域ニ在リテ本坑第一坑第二坑ヲ總稱スルモノニシテ福岡市ノ西南隅ニ接シ九州鐵道博多驛ヲ離ル約一里博多灣ニ沿ヒ西方今宿港ニ二里交通至便ナル處ニ在リ運炭ニハ九州水力電氣株式會社ノ經營ニ係ル北筑軌道ノ貨車ニヨリ今宿港ニ陸送シ又福岡市内ハ馬車ヲ以テ運送ス

本山ハ舊藩時代藩主黒田家ノ事業トシテ本區域ノ中央部ニ於テ上層炭ノミ採掘シタルコトアリシカ其經營者轉々シ明治四十二年六月杉江玖重ノ經營スル處トナリシ時高津龜太郎大正元年八月ヨリ各方面ニ試錐ヲナシ下部炭層ヲ發見シ遂ニ杉江ト合併シ大正三年三月福岡鑛業株式會社ヲ創立シ本坑第一坑ヲ開坑シ續テ第二坑ノ開坑ニ著手シ大正五年八月ヨリ出炭量大ニ増加スルニ至レリ本年一月更ニ事業ノ擴張設備ノ改善ニ著手スルニ至レリ今大正五年中ノ出炭量ヲ見ルニ十三萬二千七百九十一噸ヲ算ス

鑛區ハ採掘權登錄第八九六、九二四、九四二號ニシテ總坪數二百三十八萬九千九百坪ナリ
地質 地質ハ第三紀夾炭層及ビ第四紀沖積層ニシテ前者ハ主トシテ砂岩泥板岩、礫岩ノ三種ニシテ
區域ノ大部分ヲ占メ後者ハ榎川、室見川兩流域ニ沿ヘル低地及博多灣海底ヲ爲シ主トシテ泥土、砂礫
ヨリ成リ第三紀層ノ上部ヲ被覆ス

炭層 炭層ハ第三紀層ニ屬スル砂岩泥板岩等ト互層シ鳥飼村大字鳥飼ヲ中心トシテ北西新町博多
灣ニ至リ南ハ同村大字別府及ビ龜原ニ互リ層厚尺餘ヨリ數尺ニ及フモノ十層ヲ算スト云フ其主要
炭層ヲ上部ヨリ順記スレハ左ノ如シ

炭層

上三尺炭

此間六十三尺

上四尺炭

此間二百二十六尺

五尺炭

此間二十九尺

下四尺炭

炭層ノ走向百五十度傾斜平均十度西南ニ斜下スレトモ走向南スルニ從ヒ彎曲シ龜原方面ニ至リ走
向全ク東西トナリ傾斜平均二十度ニ及ヒ北ニ傾キ殆ト簸形狀ヲ爲スモノノ如シ現今專ラ採掘スル

モノハ上三尺炭、上四尺炭、五尺炭ノ三層トス

採炭ノ方法ハ手掘ニシテ殘柱式及ビ長壁式ヲ併用シ主要坑道ニハ十八封度乃至十二封度軌條ヲ敷
設シ炭車ニヨリ曳揚機ヲ以テ坑外ニ搬出ス曳揚機ハ汽力ニヨリ汽筒徑十六吋一臺、十四吋一臺、十二
吋一臺ヲ使用ス選炭ハ萬斛八臺ニヨリ塊粉ヲ區別シ一日處理炭量七百噸ノジンマー式選炭機二臺、
同五百噸ノムーペルトラウ式洗炭機一臺ニ選別ス排水ニハ汽力唧筒ヲ使用シスベシヤル式八臺、

バンス式六臺、ブランチャー式一臺等ニシテ汽筒徑二十二吋乃至十四吋ノモノヲ用フ坑内ノ湧水比
較的小量ナリ通氣ハ一般自然法ニヨル原動力ハ汽力ヨリ汽罐十二基ヲ備フ其ノ長サ三十尺乃至二
十四尺徑六尺乃至五尺ニシテ型式ハ「ランカシャイヤ」主ナルモノトス電力ハ九州電燈鐵道株式會
社ヨリ一日平均四百「キロワット」ノ供給ヲ受ケ選炭機及給水唧筒竝ニ電燈用ニ供ス

大正五年末ニ於ケル鑛夫數ハ男千四百三十六名、女五百二十六名、幼年者百三十五名、男一人一日ノ賃
金最高一圓二十錢、最低三十五錢、女最高一圓〇八錢、最低二十錢、幼年者最高八十錢、最低十五錢ナリ大
正五年中ニ於ケル爆藥使用高ハ三百二十三貫四百匁、價額二千三百五十六圓又坑木使用高ハ總本數
五十七萬餘本、價額三萬八千五百八十七圓ナリシト云フ